

1月

Check

今月の栽培ポイント

宮農情報



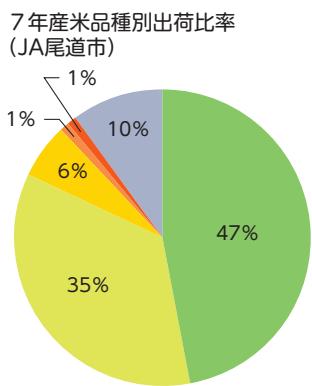
詳しくはお近くの下記事業所までお問い合わせください。

水稻

令和8年を迎えて、今年の米作りに向け、作付計画を立てる時期となりました。7年産で発見した課題をクリアし、良質・良食味米を栽培するため、土づくり等の準備をされていると思います。

今回は、7年産米の集荷実績および検査等級などをお伝えいたします。米検査等級などをお伝えいたします。米検査等級などを参考にしていただき、対策に役立ててください。

- コシヒカリ
- あきさかり
- つきあかり
- こいもみじ
- 恋の予感
- その他

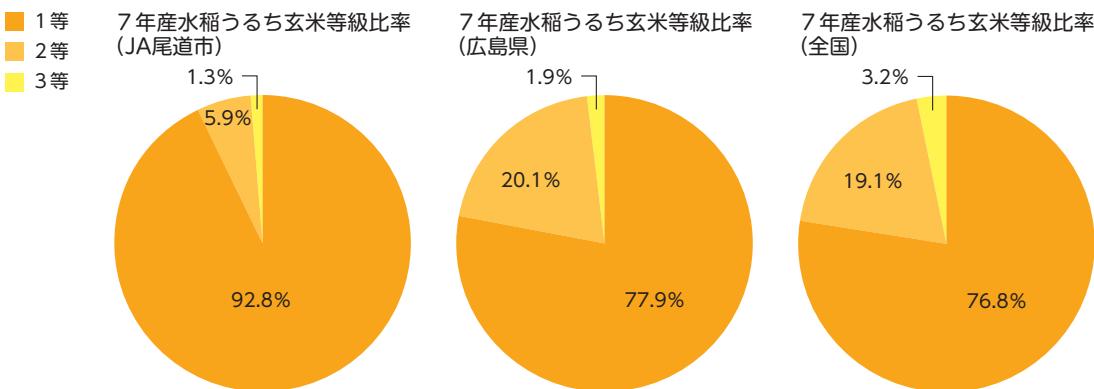


[JA尾道市管内での7年産米出荷比率]

J A尾道市へ出荷された米は全銘柄（飼料用米を除く）で約1,894トン。品種別に見てみると全出荷量のうち約47%は「コシヒカリ」が占め、次いで多収性品種の「あきさかり」、早生品種で多収性の「つきあかり」となっています。

7年産の広島県における作況単収指数は104（10月25日時点）で「やや良」となっています。広島県南部の10a当たりの収量は557kg、北部が512kgという結果になりました。

J A尾道市管内では、高温に起因する乳白粒や充実不足や発芽粒、一部地域では干ばつの影響でもみの黒変や空穂がみられましたが、穗数は前年並み、粒数はやや多くなりました。



適正入庫量は、一坪当たり800kg程度開けます。

適正入庫量は、一坪当たり800kgとします。

貯蔵中は、一日一回を基本に外気温が貯蔵適温に近い時間帯に換気を行います。また、貯蔵庫が乾燥する場合は、打ち水や濡れムシロを敷き湿度を保ちます。乾燥しやすい場所では、有孔ボリによる貯蔵も効果的です。

作柄概況

みましょ。

[7年産米等級比率]

水稻うるち玄米の検査等級比率を見てみましょう。

J A尾道市の1等米比率は、全国や広島県の数値と比較しても高くなっています。

県の数値と比較しても高くなっています。ライスセンターの利用や色彩選別機の普及による品質向上もさることながら、気象条件に左右される作物を栽培する中で安定した栽培を行うことは、みんなさんの日々の管理と経験・栽培技術が作り出す成果です。

柑橘

清見の園地では、ヘタ周辺のひび割れ（クラッキング）の発生に注意しましょう。

[中晩柑類の収穫・貯蔵のポイント]

中晩柑は完熟採収が基本です。果実の取扱いは丁寧に行い、商品ロス防止に努めましょう。

棚貯蔵の場合は、果実2~3個重ねまでとします。コンテナ貯蔵の場合は七入れまでとし、通気性を高めるため底にたる木を敷き、コンテナの間隔は10~15cm程度開けます。

貯蔵適温に近い時間帯に換気を行います。また、貯蔵庫が乾燥する場合は、打ち水や濡れムシロを敷き湿度を保ちます。



▲有孔ポリは微細な穴があいているので、過湿になりにくい
乾燥しやすい貯蔵庫は新聞紙より湿度を保ちやすい



▲しらぬひの収穫の仕方



▲しらぬひヤケ果

【表1】しらぬひの貯蔵方法

時期	貯蔵方法
2月出荷	①サンテ・3重袋をした果実 果実は防寒資材をしたまま常温で保管する。出荷7日前に取り出し果梗枝を切り返し、軽く自然予措し選別する。 ②裸の果実 葉を切り取り自然予措後、妻面をあけ新聞紙囲いで貯蔵する。
3月上旬～中旬	サンテ・3重袋から出して、自然予措で3%（約2週間程度）後、妻面をあけ新聞紙囲いで貯蔵する
3月下旬以降	収穫後、減酸促進のため有孔ポリ個装する



▲新製品 デコチョンのドクターカット
特徴
刃が反っているので果実にハサミ傷がつきにくい
刃が細いので狭い場所でもハサミがいれやすい
腱鞘炎になりにくく

【土づくり】

果実が生っている状態で寒さの被害を受けると、樹体ダメージが大きくなります。気温がマイナスになる予報が出たら速やかに残果は収穫しましょう。

土壤改良を実施し、発根量を増やすと結果的に葉数が増加し収量増加につながります。

石灰質資材は、毎年10a当たり100kgを投入しましょう。苦土欠乏園では、緩効性のニューエコマグカスーパーMAG

◆八朔

八朔は、雑な取り扱いでヤケが発生しやすくなるので注意しましょう。また、貯蔵中に乾燥または高温(10℃で発生、15℃で多発)でヤケ果が発生しますので注意しましょう。乾燥しやすい貯蔵庫は、有孔ポリ包装がおすすめです。

◆しらぬひ

本年度のしらぬひは、夏の干ばつによりヤケ果が発生しやすい状況にあります。収穫時は果実を丁寧に扱いましょう。収穫時はデコチョンを使用し、ハサミ傷をつけないよう注意しましょう。また、果梗枝の付け根で切り取り収穫しましょう。雑な果実の取扱いは、油胞の黒変症状につながります。収穫力コからコンテンへ移す際は手移ししましょう。

貯蔵は表1のように出荷時期や果実内容で変えるようにしてください。

◆はるみ

はるみは腐敗果が発生すると、汁が垂れ腐敗が伝染しやすい性質があります。腐敗果点検をこまめに実施しましょう。

◆はるか

採収は1月下旬からで、完熟・糖度12度以上が基本です。寒波被害の恐れがある場合は、採収を早めてください。

収穫後は2L以上とし以下に仕分け、軒下の温暖で通気の良い場所で7%程度の予措を実施してください。予措期間中の低温で果実が凍結することがあるので、低温が予想される場合は毛布等で保温しましょう。予措が不十分だと出荷時に上がり（粒化症）が発生し商品性が無くなります。予措終了後は、新聞紙囲いまたはもぎたてパックを使用し、常温貯蔵してください。

◆レモン

果実が生っている状態で寒さの被害を受けると、樹体ダメージが大きくなります。気温がマイナスになる予報が出たら速やかに残果は収穫しましょう。

を別途施用する必要があります。

堆肥は1樹1袋を目標に投入します。

樹勢衰弱し葉数が減つてきた樹では、
樹冠下に真砂土を2cm程度客土します。

う。

◆堆肥別の特徴

○乾燥・発酵鶏ふん

窒素成分が約4%と肥料成分が高く、
分解が早いのが特徴です。やり過ぎると
樹が枯れる可能性があるので注意しま
しょう。土壤改良効果は低い資材です。

○豚ふん

窒素成分は3・5%程度でリン酸、石
灰、亜鉛、銅の含有量が高い資材です。

牛ふんと比較すると土壤改良効果は低い
資材です。

○牛ふん・バーク堆肥

肥料成分が少なく、土壤改良効果が高
い資材です。柑橘園におすすめの堆肥で
す。

【間伐】

【剪定】

作業性の向上や着花量調整のため剪定
を実施します。

剪定後に寒波に遭遇すると枝の枯こみ
が激しくなるので、寒さの心配がなくな
る頃から開始しましょう。



▲作業性と成品率向上のため間伐を実施しましょう

【剪定】

主枝と亜主枝をしっかりと認識して、
樹勢のバランスを見ながら、日当たりと
作業性を考慮して、剪定を行ってください。

【間伐】

植栽間隔が狭く込み合った園では、必
ず間伐を行い園内に日光が差し込むよう
にしましょう。

春夏にかけて枝が成長し、葉が茂ったた
く状態をイメージしながら作業を進めま
しょう。

【園内清掃】

落葉や残果、剪定枝は、病害虫の越冬
場所になり、発生源となります。園外に
持ち出し処分しましょう。

病害虫の発生が見られた園地では、特
に注意が必要です。

【放任園伐採】

放任する前に借り手がないか農業委
員会に相談しましょう。相談の結果、借
り手も無く放任せざるを得ない場合は、近
隣の園地に病虫害や鳥獣害が及ばないよ
う、樹の伐採や除草管理等をしてください

ぶどう

【ハウス栽培】

被覆から加温開始までの期間が短い
と、地温が十分に上がりず、根からの吸
水が不十分となり、発芽の不揃いや新梢
の初期生育不良が起こりやすくなるた
め、無加温期間を10～20日間は取りま
しょう。

被覆から萌芽までの期間は多くの水分
い。

落葉果樹

を必要とします。被覆直後にたっぷり
(40mm以上)灌水を行ってください。その

後は定期的に20mm程度の灌水を行い、ハ
ウス内を湿度90%以上に保つようにしま
しょう。また、芽の乾燥防止のために枝
散水を行うのも良いでしょう。

【露地栽培】

2月上旬頃を日途に発芽率向上の対策
として、CX-10または、メリット青な
どの処理を行いましょう。

もも

樹勢が弱った樹、高品質品種への更新
の際は、改植を行います。ただし、同じ
場所で栽培を繰り返すと、「いや地」と呼
ばれる連作障害が発生し、樹が衰弱する
ことがあります。

【改植】

改植する場合には、
・土壤中に残っている根をできる限り除
去する
・客土する
・前の樹の植え跡からずらして植える
などの対策を行いましょう。

いちじく

整形・剪定を行いましょう。樹勢の強
い樹では間引き剪定を、樹勢の弱い樹で
は切り返し剪定を主体に行いましょう。
さらに、誘引等で整枝を行い、樹づくり

に努めましょう。

【排水対策】

水はけの悪い園地では、溝切りの実施や明渠等を設け、排水対策を行いましょう。

水田転換園は特に注意してください。

【中耕】

2カ月以上にもおよぶ収穫作業により、土壤が踏み固められています。イチジクの根は、土壤の表層に多いので中耕を行い、土壤環境の改善に努めましょう。

しかし、株元は細根が多いため、中耕しうざると断根により、樹勢が落ちてしまふ恐れがあるため控えましょう。

【園内清掃】

剪定枝や葉・残果等は、病害虫の発生源となりますので、かき集めて園外に持ち出し処分しましょう。

家庭菜園



◆解決ポイント

排水性、保水性のある土づくりと、マルチ栽培や敷きわらで水分量を一定に保ちます。

雨除け栽培や、裂果しにくい品種選び、適期の収穫で過熟にさせないことも必要です。

【大根のス入り】

水、保水性のある土づくりなどが重要です。

【トマトの実が割れてしまつた】

◆原因
急激な水分量の変化が原因です。
強い日差しによって硬くなつた果皮は、割れやすくなります。

◆原因
収穫が遅れた場合に多く発生します。
また、土壤中の肥料分が多い状態でも発生が助長されます。

◆解決ポイント

適期収穫に努めることと、極端な多肥を控えることが重要です。



◆解決ポイント

土壤診断による施肥設計を行い、窒素、リン酸、カリだけでなく、その他の微量元素もしっかり補給しましょう。
緊急性が高い場合は、不足した養分を液肥で補給するなどの対策が必要です。



【まとめ】

野菜を栽培するうえで、農薬による防除も重要ですが、土の状態を調べた上での土づくりや肥培管理が重要なになります。

また、収穫適期の把握や、灌水対策もしっかりと実施し、品質の良い野菜作りに取り組みましょう。

◆原因

カルシウム不足、灌水不足で発生します。

◆解決ポイント

カルシウム資材の補給や定期的な灌